また、この

FSCC /// J

ヘン大会2

の世界大会(I

を解明した。

き起こすこと 加齢変化を引

「老化の伝播」

胞が抑制する を真皮の幹細

肌でも皮脂腺周囲に豊富

に存在することを発見し

層の状態が加齢で悪化す ワやたるみは、肌の真皮

ることが大きな要因だ

少する幹細胞が高齢者の ことや、加齢で著しく減

優秀賞を受賞している。

頭発表し、最

018 でロ

加齢により発生するシ

若年層の真皮の細胞

多数の突起(矢印)を伸ばしている

との結果となった。

施したWeb調査では、

## 第3144号 薬部外品の有効性が認められ、厚生労働省から「頭皮汗臭を防ぐ」効能 発揮できることを見出し、日本で初めて上記3成分を有効成分とした医 ラフェノールスルホン酸亜鉛の組み合わせで、頭皮汗臭の予防に効果が 本初となる 体臭研究を進めるマンダムはこのほど、リゾチ ム塩酸塩、イソプロピルメチルフェノール、パ 真を防 は、リゾチーム塩酸塩が 塩酸塩を併用した場合 フェノールとリゾチーム し、イソプロピルメチル が低下してしまう。しか

対象に「ニオイの気にな の男性1万4863名を 同社が30代後半~40代 効果の承認を取得した。 のニオイ強度を調べる嗅 覚測定では、「頭」(頭頂 用してきた。 対処できる製品開発に応

も、「頭」(38・5%)は 20代~50代女性1万人を にニオイが気になる部位 「ワキ」(56・7%)の次 対象としたWeb調査で わかっている。ちなみに る体の部位」について実 に「頭」(58・5%)の 「ワキ」 (64・7%) の次 ーオイが気になることが 高い傾向にあることが認 どにとどまり、日中に行 より発生するミドル男性 究において、主に後頭部 える対処法がなかった。 められた。しかし、頭の 部・後頭部)のニオイ強 に特有の脂っぽい汗のニ 入りにシャンプーするな ニオイの対処方法は、念 度が「ワキ」と比べても そこで同社は、体臭研 となっていた。 謝することによって発生 場合、頭皮の皮脂が課題 的であるが、頭のニオイ る成分を皮膚常在菌が代 は殺菌と汗の抑制が効果 する。そのため、防臭に (頭皮汗臭)を防臭する 汗臭は、汗中に含まれ 頭皮は身体の中でも皮

で、肌の若返りが期待で 液が、幹細胞を誘引する 究成果を頭皮のニオイに 在を明らかにし、その研 オイ「ミドル脂臭」の存 さらに、アイリス抽出 幹細胞を活用すること かった。 ムは十分にわかっていな が、その詳細なメカニズ 油に取り込まれ、殺菌力 電子顕微鏡解析技術を新 イソプロピルメチルフェ 脂量が多く、殺菌成分・ した油性成分存在下では ノールは、皮脂成分を模 今回の共同研究では、

週

学研究所との共同研究に

松﨑恭一主任教授と生理

ことを見出した。

祉大学医学部形成外科学

資生堂は、国際医療福

より、加齢に伴い肌内部

に形成される

が、周囲の細老化した細胞

果を、今後の きる同研究成

たに開発し、

細胞の微細

下させ、

、肌の

化粧品技術者

高齢者で観察された形状の変化した真皮の細胞

胞の機能を低

用していく。

製品開発へ応

刊

男性を対象とした部位別

また、40~50代ミドル

質のため、油性成分存在 の濃度を高めると濃度依 さらにリゾチーム塩酸塩 油に取り込まれにくい性 下でも殺菌効果を示し、 もに、制汗成分としてパ においても相補的に優れ 亜鉛を配合することによ た殺菌力を発揮するとと より、皮脂量の多い頭皮 ることが明らかになった。 り頭皮汗臭を防ぐ製品に ラフェノールスルホン酸 存的に殺菌力が増強され この研究成果の応用に

なるという。 ●男性におけるニオイの気になる体の部位 70 -60 -50 -40 -32.7 I 15.9

が確認された。

強度が低下していること 前に比べて有意にニオイ した結果、連用後は連用 合した製品を頭皮に2週

間連用し、防臭力を評価

首筋 足 耳の裏

の状態を24時間後も維持

一オイ強度は、洗髪直後 また、連用後の頭皮の

しているレベルで、十分

な防臭効果を有している

## 資 生 堂

実際、上記3成分を配

ことも認められた。

## の若返りに近づく 新規有用成分を開 発

な形状までも観察するこ 再生力の要である表皮幹 ミニン511」が、肌の ことを世界で初めて発見 細胞の維持に重要である 膜の構成成分である「ラ 真皮の間に存在する基底 資生堂は、肌の表皮と<br />
した。 子の産生を抑制すること 究を行い、基底膜のダメ その減少に関与している 減少することを発見し、 ージにより表皮幹細胞が たり基底膜に着目した研 同社では、約30年にわ

とに成功した。この技術 化細胞)が観察された。 形状の変化した細胞(老 真皮中には、突起を失い、 いるのに対し、高齢者の は多数の突起を伸ばして ろ、若齢者の真皮の細胞 で真皮を解析したとこ 老化の進んだ真皮中に、 が明らかになった。 胞は、加齢に伴い著しく を見出した。真皮の幹細 細胞を蓄える「リザーバ 皮でも皮脂腺の周囲に ー」として機能すること 皮脂腺は、その周囲に幹 に存在した。このように は、真皮の幹細胞が豊富 減少するが、高齢者の真 この一連の発見から、

突起が失われている が明らかになった。 を及ぼすことが確認され 化因子)を分泌すること 果、老化細胞は因子(老 播」をとめる方法を探索 の加齢変化が起きること 化の伝播」により、真皮 で、周囲の細胞に悪影響 た。つまり、こうした「老 )たところ、<br />
真皮の幹細 同社では、「老化の伝 細胞を用いた実験の結 な状態にすることが可能 ろ、アイリスの抽出液に 用いた研究を進めたとこ 伝播をとめ、真皮を良好 と考え、さらに幹細胞を 誘引することで、老化の リザーバーから幹細胞を 幹細胞を誘引する働きを

> の研究を進めていくと、 少を抑え、維持している と」がわかった。 基底膜の構成成分を探索 い産生量が減少するこ されること」「加齢に伴 「紫外線を浴びると分解 ことを突き止めた。さら ニン511」の分解を抑 した結果、「ラミニン5 に、「ラミニン511」 同社では、 1」が表皮幹細胞の減 まず「ラミ た がるという。 ら、海藻抽出液を見出し 出物約180品の中 まり、肌質の改善につな 細胞の減少を食い止める 分を探索し、天然由来抽 の分解を抑制し、表皮幹 1」の産生を促進する成 ことで、肌の再生力が高 は、「ラミニン511」 減少する「ラミニン51 「ステムラン173」 か

待される化合物約2万品 維持する新規有用成分 の中から、表皮幹細胞を た結果、肌への効果が期 制する成分の探索を行っ 12年の歳月をかけて開発 「ステムラン173」を 173」により「ラミニ さらに、「ステムラン 品へ応用していく。 から、今後スキンケア製 の若返りに近づく有用成 あり、あらゆる人々が肌 る表皮幹細胞の減少を食 クで年齢とともに減少す には、生まれた時がピー い止めて維持する働きが 分として期待できること 「ステムラン173」

ラミニン511(緑色)、細胞の核(青色)

分解を抑える

ン511]の

〈ステムラン173なし〉 〈ステムラン173あり〉 ステムラン173により、ラミニン511の分解を抑制する 表皮幹細胞の維持 表皮幹細胞(緑色)、細胞の核(青色) 〈ステムラン173あり〉 〈ステムラン173なし〉

肌質改善効果

があることを

れ、明らかな

状態で維持さ

幹細胞が良い 60歳代の表皮 と、〇歳から

もに、加齢に 確認するとと

ラミニン511の分解抑制

産生量が

ステムラン173により、表皮幹細胞を維持する